

# 創刊の辞

藤 本 徳 明

「同志社女子大学日本語日本文学」の創刊にあたって、深い感慨を禁じえないものがある。本誌は、同志社女子大学日本語日本文学会の研究誌として、その母体をなす同志社女子大学短期大学部日本語日本文学科の出発時である昭和六十一年（一九八六年）から企画されていたものであった。一世紀の永きにわたる同志社女子大学の歴史の中で、日本語日本文学関係の学科としては、最初の学科であり、それに寄せる関係者の理想の一環として、この研究誌の発刊には、様々な抱負がこめられていたことを承知しているからである。

いくらか永びいた、本誌の企画から創刊に至る期間にも、同志社女子大学短期大学部日本語日本文学科への社会的評価は、年々高まってきたようであることは、喜ぶべきことであり、それを可能にして頂いた関係各位には、深い感謝の念を抱かずにはいられない。おそらく、そうした実績も幸いして、学芸学部の方でも、新しい形での日本語日本文学科の新設が企画され、立案・認可・発足の作業は異例の速さで進捗。元号も改まった平成元年（一九八九年）春に、これまた高い社会的評価を得たと自負してよい形で新発足しえたことは、重ねて喜びにたえないところである。

今後は、学芸学部と短期大学部の、同じ日本語日本文学科の、また同じ学会の会員として、相互刺激による切磋琢磨の場とするため、本誌は、教員のみならず、いずれは在学生や卒業生会員にも、その誌面が開かれることとなろう。あらためて、諸賢のご指導とご支援とを賜わり、若い学科と学会、そしてその研究誌が発展し、その成果の多からんことを念願しつつ、創刊のご挨拶とさせて頂くものである。

（本学教授・学会代表）